

令和2年2月25日

各 位

荻窪地域区民センター協議会
会長 榎枝 光太郎

令和元年度「地域懇談会」について

日頃から荻窪地域区民センター協議会の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、この度は地域懇談会にご参加いただき、重ねてお礼申し上げます。

地域懇談会グループ討議の内容及びアンケート結果をまとめましたので、ご査収ください。

当協議会では、グループ討議とアンケートで頂いたご意見を参考にしながら、引き続き地域の繋がりづくりのための取組を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいいたします。

送付内容

- 1 令和元年度 地域懇談会 グループ討議
- 2 令和元年度 地域懇談会 アンケート結果

荻窪地域区民センター協議会事務局
住所 杉並区荻窪2-34-20
電話 03-3398-9127

令和元年度 地域懇談会 グループ討議

各グループの進行役がまとめた内容です。各グループごとにそれぞれ活発な討議が行われましたので、形式などを統一しておりません。

【Aグループ】

[概観]

* 討議テーマが良く浸透していなかったせいか、自己紹介の段階で自治会、町内会、民生委員等の立場で意見が出てしまった。結果とりとめのない討議となった。

[討議]

(1) 助け合える関係作り

* 助け合える関係作りにはお互いに知り合う事が大切。

* 防災、震災、防犯問題を考えても、顔を知り合ったほうが良い。

昔は大家族で力が有った、最近は若い世代の家族が沢山移住してきており、現在は5割以上が核家族と高齢者夫婦、独居老人世帯が多くなり、その人たちに力を出させるのは大変である。行政も支援が上手く出来ていない。又、親が親になれていないので、母子家庭は不安定である。

* 地域福祉の元締めは社協である、区民センターは社協を支えるため手を差し伸べるべき。

* 犬友が交流しやすい、良い関係も出来る。

2世帯住宅でも親世代が死ぬと若い世代の家族は、隣同士を知らない。個人同士交流がない。

子供に声を掛けても返事をしない様にしつけられている。

親同士も交流しにくい。

*若い人を取り込むためにラジオ体操、夜警（パトロール）、祭りの時の炊き出し（模擬店）をやって欲しい。

* 神明町会は公園がない、他の地区は公園が有っても禁止事項が多くあり、子供たちがのびのびと遊べない。

(2) 区民センターについて センター祭、アート展など】

* 地域懇談会は、エリアを絞ってやって欲しい、意見交換を深められない、荻窪地域の町会は、連合会を使えばよい。

* 交流の出来る場が少なくなっている、ゆうゆう館はなくなる、児童館も廃止されている。地域センターは集まれる場所として残って欲しい。

* センター祭は区民が集まれる場所になれると良い。

* 杉並区の区民センターは、世田谷区等と比較して、町会のパンフレットが集まっていない、町会で活用できるスペースが足りない。

* 区民センターは、地域の方々がお茶を飲め、誰かに会える、気軽に集まれる場所であって、簡単な打合せも出来る場所であって欲しい。

* 事前申込制で、有料なので気軽に使いづらい。

* 区民センターの予算が均一なのが問題である。

- * 区民センターの利用は範囲が広すぎる。特に荻窪の場合、北と南では利用できない。
- * 「わたしのおぎくぼ」は町会の回覧で回っていても、ほとんど読まれていない。掲示板等に貼つたら経費節約になるのでは。
- * センター祭は、住民が集まる場所になれると良い。
- * アート展は、マンネリ化している。新鮮味を出したらよいのでは。
地元の個人出展を増やすためにどうしたらよいか考えると良い。
- * 有名工芸家の出展は管理が大変ではないか。
グループ各々が独立していってはダメ、個人出展品とグループ出展品を混ぜたほうが良いのでは。
グループ出展者が我が物顔に出展している感じがある。

【Bグループ】

[自己紹介]

- * 先ほどの交流タイムで、天沼などの地域の町会の方にお話を伺ったが、荻窪区民センターは遠くて、なかなか、利用がしにくい。ウエルファームがオープンしたので、町会の会合なども、ウエルファームを利用されることが多いになっている。確かに、駅の北側の方からは利用に不便というの間違いないと思っている。
- 建て替えを機にセンターが指定管理になるというケースが増えていることもあり、協議会も、センターで待つだけではなく、地域に出て行って、地域の皆さんと一緒に活動をしていくことを考えないといけないと思っている。
- * センター協議会のほか、ウォーキングや桃井はらっぱ広場での体操の会などの活動をしている。
- * 協議会の井の頭公園で野鳥を見るイベントに子どもと一緒に参加したが、非常に有意義だった。自分は子供の時に、調布の武蔵野の残る自然の中で思いっきり遊んで育ったので、荻窪の子供たちにも自然に親しむ体験や、荻窪を自分のふるさとだと思えるような体験をさせたいと思っている。区外でもよいのであれば、紹介できる場所もある。子どもだけでなく、高齢者も一緒に行けるようなイベントになるとよいのではないかと考えている。
- * 荻窪小学校を含む地域では子育てネットワークという組織が宮前北児童館を中心にできているので、前の意見のようなイベントを行うことができるのではないかと思っている。小さいテーマごとのグループを多く作ることによって、続くながりを作ることができるのでないかと考えている。イベントをやって多くの参加者があっても、イベントが終わったらそれっきりでつながりはできない。イベントの企画側に回ったメンバーのつながりは残っていく。
- * 西田小学校で震災救援所を中心とした活動を続けてきた。例えば、救援所となる学校のカギは、以前は行政が保管していたが、それでは災害が発生したいざという時に間に合わず、救援所に入れないのでといった事態も考えられるので、近くの地域の住民が鍵を保管することにしている。自分の家が被災した場合も、ほかの人に分かるように保管場所を教えている。
- * 教会通りを含む町会の会長を引き受けるにあたって、地域との連携を進めることにした。弁天池公園で盆踊りを開くことを始めて3年以上になる。
- * 高円寺地域でコミュニティキッチンをやっていたが、現在、西荻に住民による地域のたまり場（コミュニティ・スペース西荻みなみ）ができたので、そこでも活動を行っている。そこでは、いろいろなイベントが多数行われており、多世代が交流できる場になっている。「区民センター協議会が地域に打って出る」という話は、ここで初めて聞いたので非常に期待している。

[討議]

- * 夏休みの西田小でのラジオ体操には延べ 2000 人の参加がある。地域で参加しようという人は多いのではないか。
- * 防災に関する関心は高いので、例えば、豚汁を作ると、非常に人が集まる。
- * 震災救援所を知ってもらうイベントを開催することもよいのではないか。防災備品の大鍋で豚汁を作つて食べるといったイベントを実施している和泉などの地域もあるようだ。
- * 消火用のスタンドパイプの訓練なども必要だ。
- * 学校を使ったコミュニティ・キッチンという話もあったが、食を通した地域の交流ということもあると思う。区民センターでも、高齢者、子どもを含めた地域交流会の企画を考えている。
- * 例えば、地域でBBQのイベントをやると参加者は多いが、終わったらそれっきり、という例が多い。企画側に巻き込むことが大切ではないか。
- * 自然が残っているところへ子どもだけでなく、高齢者も一緒に行けるようなイベントを地域でやるのであれば、協議会の委員も企画段階から参加させてもらって一緒に動くといったことができるといいのではないか。また、中心になろうとしている方が協議会の委員になって進めていただくという方法もある。
- * 弁天池公園でザリガニ釣りなどができるとよいのだが無理なようだ。自然であれば善福寺川沿いか。和田堀公園のBBQ場でもよいのではないか。
この企画は、ぜひ、実現させたいところだ。
- * 「区民センター協議会が地域に打って出る」というのは、そもそも、協議会の委員が少なくなってしまい、センター祭りなどを行うのも苦労しているという現状があるので、地域の皆さんの協力を得ながら進めたいということなので、協議会の委員を増やすことも含めて、よろしくお願ひしたい。

[まとめ]

- * 今日の議論で地域のいろいろな団体が、いろいろな活動を行っていることが分かったが、その情報の共有が十分でないようだ。まず、情報の共有が必要ではないか。イベントの告知や宣伝の方法も重要だ。情報を知ってからネットワークを組んでいくことになるのだろう。

【Cグループ】

[自己紹介]

- * 昨年5月にケア24荻窪のセンター長に赴任。職場は9人の女性ばかり。昨年のおぎくぼセンター祭に社協などとの共働で出展した。
- * 大田黒公園の斜向かいにある荻窪家族プロジェクトで、地域の人たちの居場所になるよう、定期的にお茶会・食堂・医療関係者によるレクチャー、ボランティアによる演奏や落語などを開催している。社協やきずなサロンとの関係が深い。
- * 西田自治会の副会長。清掃局から柳窪までの約2000世帯で構成。会長を含め15人の役員のうち男性は3人だけ。
- * 夫が杉町連の会長。毎日ラジオ体操会を実施。
- * 白山親和会は荻窪駅北側のタウンセブンや公会堂などがある会社・商店・マンションなどが多い地域。白山神社の氏子の会と間違われる。旧若杉小は現在保育園で、マンパワーがゼロの65番目の震

災救援所。

- *毎月ウェルファームでの役員会のほか、盆踊り、講演会、10日間の（火の用心）夜回り、新年会、バスを利用した防災館見学など活発な活動を行っている。

[討議 協議会主催イベント・講座に参加しての感想、協議会に期待すること]

- *本天沼集会所で1年前に話し合ったことが何も実行されていない。
- *ここで話し合った内容（例えば最も多かった意見）が1年後にどのように改善されたかという報告がほしい。
- *このようなワークショップは交流という意味では良いが、何も結論を出さない討議であり、意味がない。
- *協議会に権限がないものを議論しても無駄だ。地域区民センター協議会は一体どういうものなのか、説明してほしい。
- *権限がなくても困っていることをこの場で話し合うためのものではないのか。
- *地域が抱える課題の解決に向けて協議会が何の権限も持たないのなら、町会内で話し合っているのと同じこと。
- *センター祭と町会や商店街などがやっているもちつき大会や盆踊り等のイベントはほぼ同じ内容で、これらを1つにまとめたらいいのではないか。
- *町会が行っているイベントを地域区民センターの広報や掲示板などに掲載したら、われわれの町会がもっと活性化するのではないか。

[まとめ]

- *自己紹介からいきなり協議会活動に対する感想や要望をお聞きしたが、そもそも協議会の役割や活動内容をご存じない方が多く、冒頭で詳しく説明すればよかったですと反省している。
また、協議会の関係団体であっても協議会活動の理解に大きな差があるという事実は、私たち協議会の日頃のアピール不足だと反省しているし、今後の関係団体との連携を強めていく中の大きな課題だと思う。

【Dグループ】

[討議]

- (1) 自己紹介とセンターにどんな印象を持っているかについて
- *杉並区のことはよく知っている一人と思う。任意団体活動もやっている。協議会はよくやっている。本天沼集会所祭りの開催は感謝している。
- *NPO法人化には至っていない。11月の荻窪音楽祭では21年間、駅前でアンデス音楽を演奏。この懇談会は年数回実施し交流の場を作りたい。
- *趣味は原語で歌うオペラ、フランス語堪能、明治座公演で頑張っている。
- *センターのことはあまりわからないが、講座を紹介され俳句や講演会に参加、興味のない講座もあったが、自分の世界が広がり知人もできた。
- *介護の窓口をやっていて、65歳以上の生活全般の相談に乗っている。協議会と連携して講座の紹介や多世代と交流できるとよい。
- *協議会OB 宮前1500世帯の会長。地域の課題を吸い上げるのは町会である。アンテナを高くシャープにしておく必要。（例：地域に聴覚障がい者が多く字幕付き落語を始めた）今センターが取り上げる課題は「防災」だと思う。荻窪センターの活動は講座、祭りともレベルが高い。

(2) センターは何をお手伝いできますか

- * 定年が延長になり、その後の地域とのつながりが難しく、協議会委員のなりてがない。男 80 歳寿命(健康 70 歳)一部の付き合いから広がらない。女はほとんど外に出るので男より 10 年は長生き、男性にいかに入らうかが課題。ケア 24 も人出不足で苦労している。
- * 協議会は行政とのつながりや、ブランドに信頼がある。それを最大限に生かす必要。担い手とセンター活性化については、きっかけがなかなかないので、自分のやりたいことをアピールできる場を作る、区民センターに行くと楽しいというイメージを作る。その企画のためならいくらでも協力できる。
- * ケア 24 は高齢者の見守りをアピールする必要がある。また、子育てについても中 3 まで医療費が無料など、とても良いことをしているが伝わらないのが残念。杉並は保育待機児童はゼロだが質に差がある(老人ホームも同様)。
- * この会を複数回続けて、情報交換をすることが大切、継続を期待している。

[まとめ]

- * グループの顔合わせと、センターに何らかの提案があれば幸いとした「初期」の目的は、参加の皆様からいろいろの話が出て、ある程度は達成したと思えるが、「センターは何を手伝えるか」「センターに何をしていただけるか」についての検討という主テーマについては、エントランス部分で時間を使い果たしてしまい、「所期」の目的には至らなかった。しかし、今回の懇談会の進め方でセンターが各団体との結びつきを強め、地域を活性化したいという狙い、熱意は、雰囲気として伝わったのではないかと言える。

【E グループ】

[自己紹介]

- * 杉並区には 65 の「いきいきクラブ」があり、高井戸地区区民センター内に事務局がある。60 歳以上が参加要件だが、平均して 80 歳以上の参加者が多い。連合会会長の自分も 90 歳だ。参加者は減少傾向にある。
- * 地元の人を知っていた方がいいと考え、協議会に参加した。印刷関係の会社に勤めていたこともあり、冊子作りには慣れているので広報を担当している。
- * 町会は高齢化している。若い人が参加してくれず、人数は減ってきてている。
- * 荻窪 5 丁目町会はスタッフに恵まれている。メイン行事として、桃二小で盆踊り大会をやってきたが、建て替えで校庭が使えず、一からやり直しとなっている。紐が付くのは嫌ということで、杉並区からの補助はもらっていない。町会メンバーは商店会と同じだ。
- * マンションが多く、一括で町会に入ってくれているので、本天沼西町会の加入率は 82% と高率だ。ただ、日大通りの商店街はシャッターを降ろす商店が増えている。
- * 昨年会社を退職し、いつも家に居てもらつては困るという妻の斡旋で、協議会委員となった。
- * 若い人が外へ出て行き、独居高齢者が増えている。そうした人は自分から声を出せない人が多い。助けることが出来ないか、町会や民生委員、ケア 24 が訪問しているが、なかなか取っ掛かりがない。
- * 都庁を退職後、オレオレ詐欺の防止のためなどで消費者センターの協力員を務めた。現在は協議会委員とともに、昨年 12 月から民生委員の研修中だ。

[討議]

- * 自己紹介に時間を取られ討議時間は短かったが、協議会に対し以下の意見、質問が出された。
 - ・ 協議会は縦割りで、町会などとの連携が不足している。

- ・さざんかネットが優先されているようだが、申請を簡素化してほしい。
- ・イベントや場所の確保に関し、協議会の権限の範囲はどうなのか。
- ・協議会委員の年齢構成の質問があり、町会同様に70歳前後の高齢者が多い現状を説明した。

【Fグループ】

[概観]

*議論のテーマは、「センター協議会は何をお手伝い出来ますか？何をお手伝いしていただけますか？」であり、センターの認知度の問題や厳しい批判を予想したが、当グループメンバーは、センターのことをよく知っている方が多く、また旧協議会メンバーで今も活動に参加している方などもいらして、認知度に関する議論はなく、活動の工夫などを通じ鼓舞してくれる方がいたりと、現協議会としては有難い内容だった。

[自己紹介]

- *今後とも協議会企画に参画していきたい。
- *「センターまつり」に参加、センター活動の紹介に関しては「永福」の手づくり冊子は面白いと感じた。「荻窪」も参考にしたらどうか。
- *アート展には出品（ガラス画）予定で楽しみにしている。今は高井戸センター、すぎなみ地域大学にも入っている。OB会メンバー、ご自身のホームページ立ち上げ)
- *現在は民生委員、児童指導員でもある。防災フォーラムは西荻と始めた。西荻、阿佐谷センターとも交流してきた。協議会が命名した「荻外荘通り」の動きには関心をもっている。
- *防災フォーラムで経験を踏まえ講話を行った。フォーラムなどセンターの外に出て活動することを提言。杉並区のセンターは7か所、相互交流がもっとあってよい。
- *協議会メンバー2名からは担当の活動を紹介。

[討議・提案]

- *防災フォーラムに関しては、出かけていって実施するのがよいのではないか。(例えば、ウェルファーム杉並、地域の小・中学校など)
- *缶バッジの効用を計る：
 - ①挨拶マークなどを使って各町会に色を分けて配り、町会の特色とする。
 - ②缶バッジの提供と引きかえに、寄附集めに利用する。(東日本大震災のときなど実例あり)
- *センターの幟(のぼり)旗を見なくなったが、復活させるとよい。
- *関連活動で話題となったもの
 - ・小学生対象の料理教室などを「育成会」でやっている。
 - ・センターを使って、「学童クラブ」で昔遊び、お手玉などをやっていたことがある。
 - ・「学童クラブ」関係では今も民生委員、PTAが協力してイベントをやっている。
 - ・桃二小、荻窪東町会でも、同様の子ども向けイベントをやっている。

以上

令和元年度 地域懇談会 参加者アンケート結果

日時 令和2年2月1日（土曜日）

参加者 33名 (協議委員 17名 合計 50名)

アンケート回収数 16 回収率 48.5% (16/33)

1) 「第1部交流タイム」本日のゴールは達成出来ましたか？

- ① よくできた 2名 ② まあまあできた 11名 ③ あまりできなかった 3名

2) 「第2部グループ討議タイム」本日のゴールは達成出来ましたか？

- ① よくできた 1名 ② まあまあできた 11名 ③ あまりできなかた 3名
(無記入 1名)

3) 懇談会の長さはいかがでしたか？

- ① ちょうどよい 9名 ② 足りなかった 4名 ③ 長かった 0名
(無記入 3名)

<自由記述>

1) 「第1部交流タイム】のご感想をお聞かせください。

- 色々な知らない方にお会えたのは、よかったです。(5名)
- やってみると結構為になりました。
- 工夫が見えてよかったです。
- まず協議会の立場や内容を皆さんに、理解してもらってからやるべきだった。
- まず入り口のところで話し合いになり、この会合の意味から議論となりました。
- 自己紹介が長く個人的立場がよく分かった。
- 我の喉が痛くなりました。

2) 「第2部グループ討議タイム】のご感想をお聞かせください。

- 多世代交流と企画する側としての参加に意味があると言う感想は同じだと感じ

た。

- ブレーンストーミング的な討議であったが、問題提示がされ良かった。
- 参考になるご意見もあり良かったと思います。もっとまとめて話をして欲しかった。
- 結論は、出なくても良いものだと思う。
- 皆様の色々な意見が聞けたのがよかったです
- 当たり前のことと言うだけで全く深堀ができなかった。
- 参加者の方々の温度差が大きかったです。

3) 今回のグループ討議タイム「センターは何をお手伝い出来ますか?・・・」についてご意見をお聞かせください。

- センター協議会が様々な場所へ出向くとゆうことが出来たら画期的だとだと思った。
- 人を参加させるのではなく、人をつなげる「一緒にやろう」の機会を作る視点が大切。
- 家から出ない方々を外に出す等は、なかなか難しい。
- 何の権限があるのか公表してください。
- センターはどういう所、どういう提案を聞いてくれるのか、行政の継ぎ役になってくれるかがまだ良く理解されなかった。

4) 全体としてのご感想や今後の懇談会についてのご意見などをお聞かせください。

- 今後、地域の町会、商店会、PTAなどに横串を通して交流を図ってください。
- 「協議会は何をお手伝いできるか、何をお手伝いして頂けるか」という問い合わせは地域活動団体との関係つくりへの姿勢として、素晴らしいと思います。
- 良いと思います。まとめがもっと欲しい。
- 今迄の懇談会から進歩したと思います。
- 新しいスタイルの懇談会で多少の戸惑いもありましたが、他グループの方との交流も出来てよかったです。
- 企画的には、おもしろかった。
- 有難うございました。大変よろしい時間でした。
- 今日の疑問点を次回のテーマとして生かしてくれればと思いました。
- 短いのが良いのか、長いのがよいのか、分らない。